

米子水鳥公園

レンジャー通信

水鳥公園の指導員(レンジャー)によるさまざまな活動をご紹介します。

■問合せ 米子水鳥公園 (☎24-6139、FAX 24-6140)



子どもラムサールクラブ

米子水鳥公園には、小学生を対象とした自然観察クラブ「子どもラムサールクラブ」があります。1999年から始めた「子ども野鳥クラブ」を基に、2005年に中海がラムサール条約登録湿地になったことを受けて、2006年から「子どもラムサールクラブ」と企画名を変え、内容をさらに発展させて現在に至ります。

1年間、毎月1回水鳥公園に集まって、季節に応じたさまざまな生き物の観察を楽しみます。5月には大山、1月には安来の田んぼと穴道湖にバス遠足に行きました。今年度は「1年間で



園内でクビキリギスを観察 (4月)

100種類以上の生き物を観察することを目標に活動しました。



大山で野鳥観察 (5月)

このクラブの会員には、他のラムサール条約登録湿地で活動している子どもたちとの交流会の際に、中海代表として参加してもらったことがあります。他の湿地での活動や生き物に触れることで、さらに興味や知識が深まります。このクラブに参加した子どもたちが将来、さまざまな分野で活動していく中で、生き物の面白さや大切さを人に伝えることができる人になってくれたらうれしいです。次年度は3月9日から受付を始めます。興味がある方はぜひ、お申し込みください。

米子水鳥公園専任指導員 桐原 佳介

美術館通信

特別企画展

神々の微笑 — 小灘一紀 絵画のあゆみ

会期 3月15日(日)まで【水曜日休館】

会場 米子市美術館 第2・4展示室

境港市に生まれた小灘一紀は、大阪市内の高校で美術教師として勤務しながら、「リアリズムとは単なる写生ではない。絵の中の人物がどんな人間なのか、風景の奥には何があるのか、見る人に感じさせなければ」と、目に見えないものもカンヴァスに写し取ろうとする姿勢で絵画制作に取り組んできました。

その彼が、生まれ育った山陰に息づく神々の物語をモチーフにした作品を手がけるようになったのは2005年ごろ。本展では《くしなだひめのみこと 榊名田比売命(水鏡)》をはじめ、2017年改組新第4回日展で内閣総理大臣賞を受賞した《いすけよりのひめ 伊須気余理比売》まで、小灘の代名詞とも言える神話絵画30点を含む約80点を一堂に展示しています。静謐かつドラマチックな作品世界を、ぜひこの機会にご堪能ください。

☎米子市美術館 (☎34-2424、FAX 33-0679)



小灘一紀《くしなだひめのみこと 榊名田比売命(水鏡)》2005年 油彩、カンヴァス